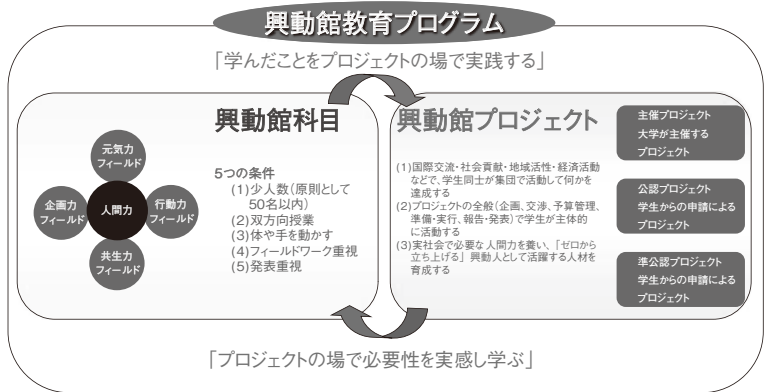


## 興動館教育プログラムの概念図



図版提供 広島経済大学

### 大学独自の社会人基礎力「人間力」育成に特化した カリキュラムや指導を行うセンターⅡ 興動館

広島経済大学が行った教育改革は、意欲や目的意識が低下している最近の学生に、実際に手や体を動かす形で、社会につながる実践的な学びの場を作り、その中で「社会人基礎力」を高めることでした。そこで育てるべき人材像を「『ゼロから立ち上げる』興動人」(※)と定めて教育カリキュラムの抜本的な改革に取り組み、平成18年度に「興動館プロジェクト」(p441参照)と「興動館科目」(p445参照)から成る「興動館教育プログラム」を立ち上げました。

# 従来の科目観を超えた 社会に飛び出す活動群は、 4年をかけた自律プログラム

大学と地域との関わりの中で、  
相互にメリットをもたらしながら学生を育成する

大学進学率が50%を超え、大学の大衆化が進む中、大学生の学習意欲の低下は大きな課題となっています。「社会人基礎力」も、大学入学前に身に付けておいてほしい力ですが、まだまだ足りない状態で入学してることがほとんどです。一方で、学生が卒業後に進む産業界では高いレベルの「社会人基礎力」が求められ、ギャップはますます広がってきています。そこには、大学自体が学問研究を中心とし、社会や地域に対して閉じた存在であったことにも原因があると言えましょう。

大学と地域の連携と言うと、理工系学部の共同研究に代表されるような実利を生み出すものがイメージされがちですが、幅広く考えて、「大学を地域に開くことで、大学が地域に根ざし地域の課題に対応した研究と教育を行う。一方、地域の大人達が大学教育の一翼を担い、教員や大学生と直接接し協働する機会が増える。そうしたことが、学生の社会力を育てるだけでなく、教員の意識を変え、大学そのものの体質改善にもつながることであり、大きなプラスの効果が期待できる」(※)という意見もあります。

「社会人基礎力」の育成を軸として、地域に開かれた大学改革を行い、社会科学系の単科大学としては、特筆すべきモデルを作ろうとしているのが広島経済大学です。

※「社会力を育てる」門脇厚司(筑波大学名誉教授) 岩波新書/平成22年

拠点となるセンターに新たな発想の科目を集中。  
学生の学びの中心に

広島経済大学

「興動館教育プログラム」の特徴は、地域との連携を強く意識していることです。「興動館プロジェクト」のテーマには、「地域の子どもの安全を守る」「街おこしのイベントの企画・運営」「川をキレイにする」など、学生の目線から地域のさまざまな問題に取り組むものが多数あります。このような活動の中で、地域の人と接することを通して、社会人としてあるべき態度を学ぶとともに、活動を地域の人から認めってもらうことは、学生の大きな自信になり、自尊心を高めて、学ぶ姿勢や「社会人基礎力」の向上に大きな効果が期待できます。大学の中だけでなく、地域に貢献する活動の中で教育を行うことは、相互にメリットをもたらすことになり、まさに望ましい形での「社会学連携」と言えるでしょう。

この大学のもう一つの特徴は、教育改革の拠点となってプログラムの立ち上げから運営、授業の実施を全て行う「興動館」というセンターを作り、ここで集中して「社会人基礎力」育成に特化したカリキュラムや指導を行っていることです。興動館は独立した建物を持ち、24時間学生の利用が可能です。ここには教員約30名、職員約10名が所属し、「興動館科目」の授業のための教室や「興動館プロジェクト」のベースが置かれ、文字通り学内の「社会人基礎力」育成教育の拠点となっています。

授業の方法からカリキュラムの構造に及ぶ抜本的な教育改革は、既存の学部組織の中で行おうとすると、教職員の合意形成が難しく、また実際に動き出しても個々の教員の授業方法や学生への接し方に基づきが生じやすいため、結果的に一部の教職員に負担が集中したり、学生が混乱したりする事態を招くことがあります。広島経済大学では、授業改善に意欲的な教職員を興動館に集中して、そこで大胆な改革を行い、その中から成功事例を蓄積して、徐々に大学全体に浸透を図る方策を取りました。

また、「興動館教育プログラム」は、既存の専門教育のカリキュラムとは独立した体系を取っており、1〜4年の全ての学生が受講することができ、「興動館科目」は卒業単位として認定されます。人間力育成を目指すプログラムは、初年次教育などではしばしば実施されますが、学年が進むにつれて受講の機会が少なくなるのが一般的です。このプログラムは、4年間を通じた人間力育成の試みとしても注目できます。

※「ゼロから立ち上げる『興動人』」既成概念にとらわれないこと、ゼロから物事を考え、失敗を恐れず、他者と協同して「何か」を成し遂げることのできる人材

## 社会につながる活動に主体的に関わることを通じて、実践力と社会人基礎力を磨く 〜興動館プロジェクト

教育活動の中で「社会人基礎力」を育成するためには、学生が活動にいかに関わるか、ということが重要になります。そのためには、テーマが学生にとって身近で魅力的なものであり、また活動が社会につながり、役に立っていることが実感できることが必要となります。学問に基づいた既成の授業活動以外に、クラブやサークルなどの課外活動の場面を利用することも考えられます。

「興動館プロジェクト」は、授業ではなく正課外で実施しています。授業で行うPBLが企業や地域などクライアントの要求に応えることを目標として、一つの課題が終了すればそこで終わりになるものが多い中で、興動館プロジェクトは、ボランティア的な国際交



「中国植林プロジェクト」／活動報告写真展



「中国植林プロジェクト」／活動報告会

## 口は出さずに見守るコーディネーターが、活動そのものとともにメンタル面も支える

各プロジェクトには、コーディネーターとよばれる一人ないし複数人の教職員が付きま

### 興動館プロジェクトの種類(平成22年4月現在)

- 主催プロジェクト(大学側が主催するプロジェクト)  
現在、カフェ運営プロジェクト、インドネシア国際貢献プロジェクト、子ども達を守ろうプロジェクト、武田山まちづくりプロジェクトの4プロジェクト(海外は1つ、国内は3つ)が活動中。
- 公認プロジェクト(学生からの申請によるプロジェクト)  
(公認プロジェクトA) 50名以上参加、1,000万円を上限とする援助が可能  
(公認プロジェクトB) 20名以上参加、500万円を上限とする援助が可能  
現在、中国植林プロジェクト、サクセスストーリー出版プロジェクト等4プロジェクトが活動中。
- 準公認プロジェクト(学生からの申請によるプロジェクト)  
5名以上20名未満の参加者で活動するプロジェクト。1プロジェクトに対し、予算範囲内で支援することがある。  
現在プロスポーツによる地域活性化プロジェクト、ファッション衣料ネット販売研究プロジェクト等9プロジェクトが活動中。

資料提供 広島経済大学

層の主體的な取り組みを促すことになりま

す。

また、プロジェクトには前期・後期の期間終了時に報告書の作成が義務付けられています。チーム全体で提出するものと、メンバー全員が個人で提出するものがあり、報告書を出さない限り修了認定はもらえません。また、締め切りやフォーマットなどは厳しく設定されています。このような資金運用や報告書の作成は、「計画力」や「実行力」、「課題発見力」などの「社会人基礎力」の育成にもつながる効果を持ち、単なるサークルや課外活動とは一線を画すものとなっています。

流や、地域の課題への取り組みなど社会貢献性の高いテーマが多く、さらにそれを長期にわたって継続的に行っているのが特徴です。興動館プロジェクトには、現在約20のテーマがあり、学年も学科もさまざまな学生約400人が参加しています。

「興動館プロジェクト」には、学生を活動に強くコミットさせ、責任を持たせるさまざまな工夫があります。まず、運営の主体は学生であり、活動の発展や拡大のために何をすべきかを自分たちで考え、実行する必要があることです。イベントも全部自分達で企画運営しますから、「創造力」も「計画力」も試されます。それにチームで取り組むことで、仲間とのコミットメントを高め、自ら主体的で積極的に難しい目標に向かうようになっていきます。

また、プロジェクトは基本的に学生からの提案です。プロジェクトとして認められるためには、企画案を大学に申請し、認可を受けることが必要です。認可されることの誇りとともに、実施には責任が伴います。大学主催のプロジェクトも4つありますが、こちらは大学から託された役割を担っているという誇りが生まれます。毎年新しいプロジェクトの募集があり、新たなプロジェクトを立ち上げようとする学生のために、「プロジェクトの種」とよばれるヒント集が準備されており、興動館の教職員が随時相談に乗っています。

さらに、プロジェクトには大学から運営資金の援助があります。プロジェクトごとに学生自身が予算を立て、帳簿を作成して収支の管理を行い、終了時には決算書を提出します。場合によっては、完済予定表を提出して大学から資金を借入れ、プロジェクトの運営で上がった利益で返済することもあります。資金の運用は、簿記や会計学など、経済学部で学んだ知識やスキルの応用であるとともに、プロジェクトに対する責任感を持たせ、より一



「子ども達を守ろうプロジェクト」  
／活動について大学内で打ち合わせ



「子ども達を守ろうプロジェクト」  
／グラウンドで子ども達と一緒に遊ぶ

### プロジェクトの概要～「子ども達を守ろうプロジェクト」

「子ども達を守ろうプロジェクト」は、大学近隣の小学校で学生が「ガードボランティア」を行うものです。不審者から小学生を守るために、昼休みに校内や学校周辺を見回ったり、グラウンドで子ども達と一緒に遊んだりしています。

このプロジェクトは、地域の人と連携して、子ども達が安心して暮らせる町づくりを目指して、平成18年に始まりました。学生は、子どもと遊ぶだけでなく、節分・クリスマスなどの行事、友達づくりをサポートするイベントの企画・開催、不審者に対する対応の研修なども行っています。

ふだんの場で子どもや先生、父母など幅広い年代の人と接する中で、社会人基礎力のさまざまな力を発揮することが求められます。また、継続的なプロジェクトであるだけに、マナーに陥らず、改善を目指す課題発見力や創造性なども必要になります。

このプロジェクトは、広島県の青少年健全育成部会の会員であると同時に、防犯組合連合会の会員ともなっており、地域の安全に大きく貢献しています。

資料提供 広島経済大学

学ばせる、というスタンスです。また、学生が行き詰まったり悩んだりした場合には、プロジェクト以外の問題も含めて、教職員がメンターとして気軽に相談に乗ったり励ましたりする環境が整えられています。

興動館では、コーディネーターの養成にも力を入れており、プロジェクト推進のサポートの方法はもちろんのこと、学生との接し方なども含めた研修を年2回行う他、基本的なファシリテーションの姿勢を紹介した手引き「コーディネーターのススメ」を作成し、教職員の意識統一とともに、指導力の向上を図っています。

また一方で、学生自身のプロジェクトマネジメント力の向上にも力を入れています。平成21年度には、学生向けのプロジェクトマネジメントのハンドブック「興動館プロジェクトが成功する20の秘訣 マネジメント編」を作成しました。企業用のマニュアル本では、学生のプロジェクトの実態には合わないため、学生を対象としたプロジェクトマネジメントのスキルアップ研修を行い、この内容をまとめたものです。このハンドブックは、学生が自分達の活動を振り返るツールともなります。

そして、全てのプロジェクトで「社会人基礎力」による評価を行っています。「社会人基礎力」の言葉を使って自らの活動を振り返る作業は、自分が社会に対してどのような貢献ができ、またどのように成長したかを気付かせることにつながります（評価の詳細については、p374参照）。

授業科目として行うPBLは、期限が短いため、身に付けるために長い時間のかかる能力の育成は期待できません。しかし、長期にわたるプロジェクトは、「創造力」や「ストレスコントロール力」など、社会で重要とされる能力も育てることになります。入学した学生を、4年間かけてじっくりと育て、社会に出すための取り組みとして、注目できます。

### どの能力を育成するかを明示した科目群 と興動館科目

「興動館教育プログラム」のもう一つの柱が「興動館科目」です。「興動館科目」は、学問領域ではなく、広島経済大学が学生の成長目標として掲げている「人間力」の4つの力かによって分類されています。現在は課題解決力や知識活用力、そして「社会人基礎力」そのものを高めるような約30の科目で、約1000人の学生が学んでいます。これらの科目は、全て少人数制で、グループワーク・フィールドワーク重視、発表重視などを特徴とする双方向型・創成型の授業です。いずれも学科や学年の枠を超えたグループ学習で、全学の学生が履修年次を問わず受講でき、卒業単位にも含まれる自由選択科目です。そのた



興動館科目(平成22年度開講科目の一部)

「人間力」 の4つの力	授業科目	
元気力	わが人生の転機Ⅰ(教職員編)Ⅱ(同窓生編)	社会系
	経済の歴史を体感しよう!	経済系
	生きがいづくりの作戦会議	人文系
	愛の講座	人文系
企画力	バーチャル株式投資で学ぶ企業分析と経済学	経済系
	瀬戸内海地域の魅力を発信しよう	社会系
	プロスポーツによる広島活性化講座	経営系
行動力	「私たちの広島」フォトカルタづくり	メディア系
	身近なボランティア活動	社会系
	NPO・NGOの立ち上げと活動	国際地域系
	戦略MG(マネジメントゲーム)	経営系
共生力	これからのリーダーシップ	社会系
	ビデオブログで「日本」を紹介しよう	語学系
	人を動かすことばと話し方	人文系
	楽しく学ぼう!ディベート	人文系
	ゲームを通じてグローバル社会を理解しよう	国際地域系

資料提供 広島経済大学

め、専門教育での学びや就職活動などで必要を感じた学生が、新入生と同じグループで学ぶことができるなど、学生が活動の随所で「社会人基礎力」を発揮させる環境があります。このように、学びと実践の場を両方準備することで、「興動館科目」で学んだ知識やスキルを「興動館プロジェクト」の活動で使ってみて、足りない部分やもっと学びたいことを「興動館科目」や専門教育科目に戻って学び直す、という循環を促しています。科目とプロジェクトに「社会人基礎力」という同じ軸を持たせることで、学生が自分で必要なものに気付くことのできる仕掛けになっています。

また「興動館科目」でも「社会人基礎力」の項目による自己評価を取り入れており、その結果をまとめた「プログレスシート」で、受講を通して、知識やスキルとともに社会で活躍するための力として何が必要か、どこが成長したかを確認することができるようになっていきます(評価の詳細については、p374参照)。このプログレスシートは、ゆくゆくは興動館以外の科目にも取り入れることが検討されています。

「社会人基礎力」を軸とした大学改革は、地域に開かれた教育のスタイルとともに新たな大学像を作り出し、大学の活

性を牽引するものとなっています。